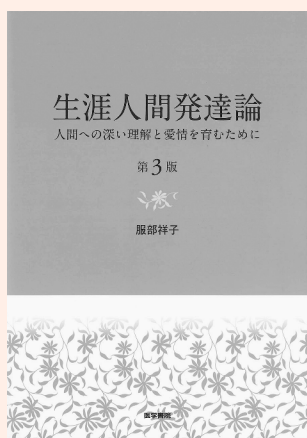


今月の

5冊



生涯人間発達論

人間への深い理解と愛情を育むために
(第3版)

服部祥子=著

本体2100円+税

医学書院 ☎03-3817-5650

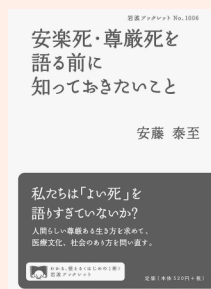
心理学者・エリクソンの理論をもとに、人間の発達過程を解説した書。人は、生まれてから老いて亡くなるまで、生涯にわたって発達していく。その発達の過程において、人はどのような危機に会う可能性があり、どのようにしてそれを乗り越えていくことができるのかを、やさしい筆致でわかりやすく説明する。看護師だけでなく、介護士や保育士、子育て中の人にも勧めたい1冊だ。

安楽死・尊厳死を語る前に 知っておきたいこと

安藤泰至=著

本体520円+税

岩波書店 ☎03-5210-4111



安楽死・尊厳死をめぐる議論は絶えない。しかし、その議論もどこか上滑りするものがある。原因は何なのか。本書は、議論をするにあたって知っておくべき歴史や背景、言葉のからくりを紹介し、その議論が陥りやすい落とし穴を明らかに。安楽死・尊厳死の議論とは、一体何を議論することなのかをさまざまな角度から考えていく。

急に具合が悪くなる

宮野真生子／磯野真穂=著

本体1600円+税

晶文社 ☎03-3518-4940



がん闘病生活を経て逝去した哲学者・宮野真生子さんと、臨床現場の調査を積み重ねてきた人類学者・磯野真穂さんとの間で交わされた往復書簡。テーマは、生と死、病気とリスクの管理、医療者と患者の関係、出会いと別れの偶然性など多岐にわたる。言葉を巧みに操る研究者同士の豪速球のキャッチボールに巻き込まれながら思考できる書だ。

殺す親 殺させられる親

重い障害のある人の親の立場で考える尊厳死・意思決定・地域移行

児玉真美=著

本体2300円+税

生活書院 ☎03-3226-1203



重症心身障害の娘を持つ著者が、障害者の医療と生命倫理の世界に眼差しを向け、問いを投げかける。重い障害のある子をもつ親は、「生きるに値しない命」と規定しようとする社会の静かな圧や、親に殺させようとする力動にさらされる。それらと抗う術と希望の在り処を、自身の実体験や過去のさまざまな事例から探っていく。

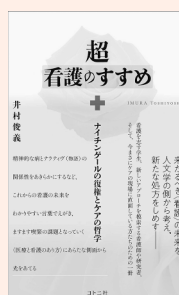
超看護のすすめ

ナイチンゲールの復権とケアの哲学

井村俊義=著

本体2400円+税

コトニ社 ☎090-7518-8826



所属する看護大学の教員や学生との交流、自身の母の看護の経験などをベースに、文化人類学、民俗学、文学、哲学とナイチンゲールの思想を駆使して、「看護とは何か」「生きていることと死ぬことの意味」について考え続けた看護大学教員による書。患者と看護者の間に新たな関係を築く、これからの看護のあり方である「超看護」を提示する。